



平成 16 年 2 月 25 日

横須賀市議会議長 神保 浩 様

『民意』が市政に生かされる事を願う会一同

横須賀市佐原 3-6-1

代表 野村 隆弘 
046-833-9303

現行の美術館建設計画の延期見直しを求める請願

貴職におかれましては、市民生活向上に多面にわたりご尽力いただき深く敬意を表します。

さて、現在横須賀市では平成 19 年開館をめざして、(仮称)横須賀市美術館の建設計画が進められております。しかしながら、市主催の「美術館トーク」の場でも明らかになったように、市民の多くがいまだ建設計画に疑問を持ち、私達が行った建設見直し署名活動では、昨年 6 月以来合計 66,452 名もの方に署名していただきました。

平成 15 年度第 4 回定例会の決算特別委員会の報告によると、平成 14 年度の本市の市債残高総額は、3459 億円に達しており、また先に発表された平成 16 年度一般会計予算案においても、市債残高 1720 億円に達する過去最高額の借金を負う見込みとなり、依然として我が横須賀市の財政状況は大変厳しい状況下にあることは否めません。

このような昨今の厳しい経済・社会状況のなかで、美術館のような大型事業(ハコモノと呼ばれる)を推進する以前に、公立学校の耐震化対策などの生活に密着した事業に重点を置くことのほうが優先されるべき案件です。そして美術館が生涯学習施設・教育施設の充実の為と言うのならもっと交通の便の良い市街地も含め建設場所を再検討し、これまではぐくまれた自然をこれ以上壊すことのない計画にすべきです。それがまさに心の豊かさを実感することです。

今、私達市民は市政に対して、決して豊かではない市財政のなか、おおくの借金に依存する大型事業は期待せず、しばらく我慢すべき時と思います。そして、将来を見据え今後も歳出みなおしを徹底し、最小の経費で最大の効果をあげる努力を求めています。

以上のことをご賢察のうえ、「現行の美術館建設計画」を延期・見直し、市民との対話のもと、より身近で親しみやすい新たな計画となるよう格別のご配慮をお願い致します。